

東北大学 東日本大震災復興



Q1 東北大学の被害状況を教えてください。

A1 9割の建物では支障がありませんでした。

今回の震災では、仙台市街地は建物の倒壊等はほとんどなく、電気・水道・ガスなどの供給停止によるインフラ被害が顕著でした。

教育・研究棟などの建物被害

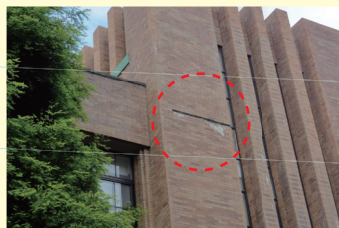
危険判定：28棟（約 4.7%）

要注意判定：48棟（約 8.2%）

安全判定：512棟（約 87.1%）

備品・設備などの設備被害

備品・設備被災数は約4千点にのぼります。



煉瓦が崩れ落ちた本部戦略棟

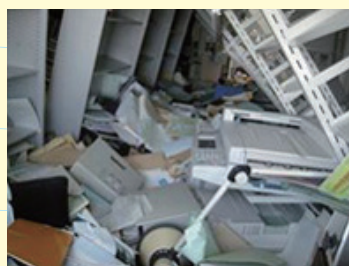


ブロック破損による倒壊の危険性がある松下会館

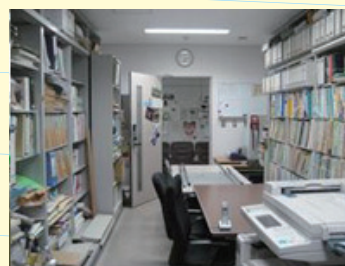
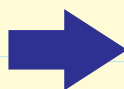
Q2 東北大学の復旧・復興状況を教えてください。

A2 ほぼ正常通りの教育・研究活動に戻っています。

本学では、震災で被災した状況を学内既存施設や設備の共用することで対応する他、国に対しても迅速な予算措置と弾力的執行制度を要求しており、本来の教育・研究環境に戻すだけでなく、この震災を機会に今まで以上の教育・研究機関として飛躍します。



震災直後



復旧後

震災の影響で、5月6日に学部ごとに入学式が行われました。翌日には川内キャンパスで新入生オリエンテーション、5月9日には授業も開始されるなど教育・研究活動が始動しました。



各学部で入学式挙行（医学部）
（平成 23.5）



授業風景（平成 23.6）



研究風景（平成 23.6）

Q3 仙台市での生活は大丈夫ですか？

A3 仙台市中心部では普段と変わらない生活が送れます。

東北大学が所在している仙台市中心部では被災は軽微で、現在、インフラや生活環境（アパート、ホテル等）、公共交通機関も含めた交通環境の整備も整い、普段と変わらない生活が送れます。

宮城県内の生活関連情報（宮城県庁ホームページから）

<http://www.pref.miyagi.jp/li.htm>

仙台市のシティーセールス情報（仙台市ホームページから）

<http://www.city.sendai.jp/kikaku/kokusai/city/index.html>



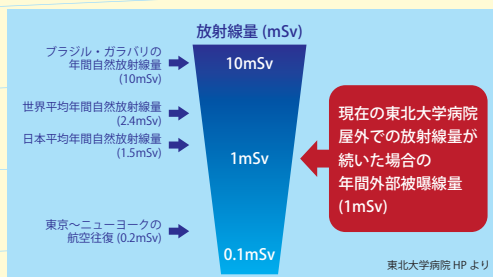
仙台市内の様子（平成 23.6）

Q4 仙台市での放射線量の影響を教えてください。

A4 いまの仙台は世界平均の半分以下です。

本学が所在している仙台市内の測定結果（測定地：仙台市青葉区青葉）は、5月17日（金）現在、おおよそ 0.09 ~ 0.10 マイクロシーベルト毎時です。この値は、東京都新宿区と同じ値で平常時の 1.5 ~ 2.0 倍で「人体に影響のないレベル」とされる値です。

また、これまで宮城県内では水道水、野菜などのモニターをしており、今のところ一度も基準を上回るような数値は観測されておりません。



東北大学のモニター <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/anzen/monitoring/>

宮城県内の環境モニタリング情報 <http://www.pref.miyagi.jp/gentai/Press/soudan/soudan00.htm>

Q5 東北大学はどのように被災地域に貢献していますか？

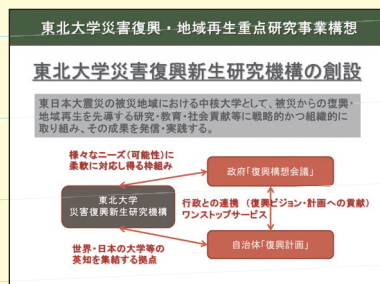
A5 学生・教職員が様々なかたちで貢献しています。

病院、医学部においては、3月11日の被災当日から現在まで被災地域で医療活動に献身的に奉仕しています。また、学生ボランティアも被災地でいろいろなかたちで貢献活動を現在も続けています。

なお、東北大学では被災地域における中核大学として、被災からの復興・地域再生を先導する研究・教育・社会貢献に戦略的かつ組織的に取り組み、その成果を発信・実践するため、東北大学災害復興新生研究機構を創設しました。



学生ボランティアの活動



医学系研究科の災害対応活動 <http://www.med.tohoku.ac.jp/emg/public.html>

病院の災害対策 <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/release/index.php?e=558>

学生ボランティア「HARU」の活動 <http://tohokugakuseifukko.blogspot.com/>